

図書館だより



↑図書館 HP

中央図書館 ☎ 258-6464
 開館時間 / 10:00 ~ 19:00 (土・日 18:00 まで)
 休館日 / 毎週月曜日、月末、土・日除く祝日

竹間沢分館 ☎ 274-1722
 開館時間 / 11:00 ~ 18:00
 休館日 / 毎週月曜日、月末、土・日除く祝日

地域文庫
 児童書の貸出、お話をなどを行います

つくし文庫…3月19日(土)10:00~12:00
 場所/上富第1区集会所

角野栄子さんの、の本別置紹介中

児童書

ハナさんのおきゃくさま

角野栄子 作
 西川おさむ 絵
 福音館書店
 1987年4月発行
 請求記号：913 カ



町はずれの森の入口に立つ家に引っ越したハナさんは、お客をよんでおもてなしをしようとしますが、次々にやってくるのは、おぼけや雪だるまなどおかしなお客たち。不思議で楽しいお話が10話入った幼年童話。

春のおはなし会—親子で楽しめる昔話&紙芝居—

無料

3月13日(日)

《5歳~2年生の部》▶時間・定員…10:10 ~ 10:50 子ども50人
 《3~6年生の部》▶時間・定員…11:10 ~ 12:00 子ども50人

中高年の読書会—ビブリオバトル—(第4回)

無料

3月24日(木) 14:00 ~ 16:00 受付 13:45

▶内容 7人がおすすめの本を5分以内で紹介し、聞き手とともに意見交換。聞くだけの参加も歓迎。本を紹介する人は早めに申し込んでください。
 ▶共催 みよし読書愛好会、図書館 ▶対象・定員 中高年の人 20人

平成28年度 としょかん・くらぶ会員募集

▶日程…第4土曜日(7・9・12月はお休み)
 ▶時間・対象 10:10 ~ 11:00 (小学1・2年 定員40人)
 11:10 ~ 12:00 (小学3~6年 定員55人)
 ▶内容 おすすめ本の読み聞かせ、読書力に応じた本の紹介。
 ▶申込方法…3月26日(土)12:00から中央図書館で受付。図書館にある申込書に記入し、本人または家族が申し込み。電話不可。

「としょかん・くらぶ」は、こんな工夫をしています。

- ①読み聞かせ…「聞く読書」で深く読み取る力を。
- ②ブックトーク(本の紹介)…専門司書がオススメ本を楽しく紹介。
- ③紹介した本のリストを毎回配布…自分の読書記録に。

※「私の好きな角野栄子さんの本」投票大会を開催します。詳しくはP22へ。

現在、日本大学のゴルフ部で活躍をする勝俣さん。大学の運動競技カテゴリーである「ピンク(桜色)」のキャディーバッグでコースを回ります。



“夢”はプロゴルファー&五輪出場 勝俣 陵さん Ryo Katsumata

今回の町長のまち・ひと・しごと魅力発見は「ひと」。プロゴルファーへの夢に向かい挑戦を続ける勝俣陵さんをご紹介します。

三芳町で育ったから、緑に囲まれたコースで力を発揮できる。

は、とても悔しかったです。落ち込んでいた時、父の勧めでゴルフを始めました」と話すのは三芳町上富出身の勝俣陵さん(20)。現在、日本大学ゴルフ部で活躍し日本ゴルフ界が注目する若手選手です。

2回目で80台を記録

「初めてコースに出たときのスコアは110。2回目に80台をマークして、ゴルフは自分に合っているのではないかと思います、ますます熱中するようになりました」

高校に入りその才能は一気に開花。2013年に埼玉県ジュニアゴルフ選手権、関東高等学校ゴルフ選手権で優勝。わずか数年でトップ選手へと成長しました。

三芳町とゴルフの関係

「自然の中でプレイできるのがゴルフの魅力です。三芳町の好きなところは自然が豊かなこと。三芳町の自然豊かな環境、緑に囲まれて育ってきました。だから楽しみつつ、リラクゼーションとしてゴルフができる。三芳町で生まれ育ったことが活かされているんです」

夢はプロと五輪出場

三芳町の思い出を笑顔で話す勝俣さんは今年成人を迎えました。



1月20日に林町長と会談。「手に力を入れられないので手まめができないんですよ。その手でがちりと握手をし、今後の活躍を誓いました。

大人への一步を踏み出した勝俣さんの夢とは。

「まず大学の先輩、堀川未来夢さんのようにプロゴルファーになることが一つ。そして4年後に開催される東京オリンピックに出場すること。夢を追いかけて、やるならとことん、挑戦を続けていきます」と力強く応えました。

PROFILE

勝俣 陵 Ryo Katsumata

かつまた りょう / 1995年12月27日生まれ 174cm AB型。三芳町上富で生まれ育つ。父の勧めで14歳からゴルフを始める。ドライバー平均飛距離は285.5ヤード。ベストスコア67。3月に中国で開催するニック・ファルドゴルフ大会に日本代表として出場予定。

歴史

探訪

文化財保護課 ☎ 258-6655

ヤマの様子とその役割③

株立ちの状態では成長した名残である。実生から成長する若木は、根の張りが少なく養分の吸収が弱い。成長しにくいのが、切り株から株立ちした若木は、成長が早く、ヤマとしての回復も早いのである。

ヤマは、かつて15~25年のサイクルで伐採された。コナラ・クヌギを中心とするヤマの木々は、薪材として山師とキキリにより切り出される。ヤマの木は15~25年を過ぎると太さ10~20センチに成長し、薪材とするに最適な太さとなる。化石燃料が普及する以前、薪は人々の暮らしに欠かせぬものであった。切り出された薪は三芳町近郊の農村部ばかりでなく、都市へも供給されていた。薪としてヤマの木を売るとは、その所有者である農家にあって、まとまった現金収入にもなった。

薪が切り出された冬、ヤマには切り株のみが残されるが、やがて春になると、切り株からは株立ちといつて何本もの若木が萌芽し、成長を始める。これらのうちから素性の良いものを2~3本残し成木に仕立てていく。ヤマのコナラやクヌギをよく見ると、2本に株分けするように生えているのが観察できる。これは、切り株から

株立ちの状態では成長した名残である。実生から成長する若木は、根の張りが少なく養分の吸収が弱い。成長しにくいのが、切り株から株立ちした若木は、成長が早く、ヤマとしての回復も早いのである。

ヤマの木は薪材だけではなく、建築材としてもアカマツやクヌギなどが利用された。アカマツは、横方向からの加重に強い梁材として、また、油分を多く含んで滑りや光沢が出るため、敷居や床材として使用された。クヌギの太木は湿気に強いことから床下材などに使われた。建築用材となる木々は、薪として切り出さずヤマに生木として残しておくか、製材して保管することもあった。自家用として保存するだけでなく、生木のまま山師に売り、換金することもあった。

伐採後の日当たりの良くなったヤマには、茅が生育し、その茅は屋根材として冬至を過ぎてから刈り取られ、必要になるまで屋根裏に保管された。

(写真) 株立ち1年目のクヌギ